実務経験のある教員等による授業科目一覧【生涯スポーツトレーナー介護福祉学科（昼間Ⅱ部）】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
人間の理解	2	鄭　瑞河		
人間関係とコミュニケーションⅠ	1	勅使河原　航		
人間関係とコミュニケーションⅡ	1	勅使河原　航		
社会と制度の理解Ⅰ	2	安川　渉寛		
社会と制度の理解Ⅱ	2	安川　渉寛		
地域福祉論	2	勅使河原　航		
介護の基本Ⅰ①	2	鄭　瑞河		
介護の基本Ⅰ②	2	鄭　瑞河		
介護の基本Ⅱ①	2	鄭　瑞河		
介護の基本Ⅱ②	2	鄭　瑞河		
介護の基本Ⅲ	4	鄭　瑞河		
コミュニケーション技術A	2	鄭　瑞河		
コミュニケーション技術B	2	宮本　明美		
生活支援技術Ⅰ	4	香坂　美穂	石橋　真由美	百留　哲
生活支援技術Ⅱ	2	香坂　美穂	石橋　真由美	百留　哲
生活支援技術Ⅲ	2	香坂　美穂	石橋　真由美	百留　哲
生活支援技術（栄養・調理）	2	尾辻　日々来	緒方　優里子	
生活支援技術（家事の介護）	1	柴田　仁子		
生活支援技術（生活支援と文化）	2	柴田　仁子	北田　清美	
介護過程Ⅰ①	2	鄭　瑞河		
介護過程2 ②	2	鄭　瑞河		
介護過程Ⅱ	2	石橋　真由美		
介護過程Ⅲ	4	鄭　瑞河		
介護総合演習Ⅰ	4	石橋　真由美	百留　哲	
介護総合演習Ⅱ	4	石橋　真由美	百留　哲	
介護実習	15	石橋　真由美	百留　哲	
障害の理解	4	柴田　仁子		
こころとからだのしくみⅠ	4	宮本　明美		
こころとからだのしくみⅠ	4	宮本　明美		
発達と老化の理解	4	宮本　明美		
認知症の理解	4	宮本　明美		
医療的ケアⅠ	2	山本　佐知子		
医療的ケアⅡ　演習	2	宮本　明美	山本　佐知子	
合　計	96			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	人間の理解					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通して人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。
到達目標	・人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 ・福祉の理念を理解し、権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
成績評価	定期試験80%、課題10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座１「人間の理解」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション（人間の理解、人間の尊厳、自立とは）
2	自立のあり方① 概念の多様性
3	自立のあり方② 自立とは
4	自立のあり方③ 介護を必要とする人の自立と自立支援
5	自立のあり方④ 尊厳の保持と自立、自立支援の関係性
6	人間の尊厳と利用者主体
7	人権思想の潮流とその具現化
8	人権や尊厳に関する日本の諸規定
9	社会福祉領域での人権福祉理念の変遷①
10	社会福祉領域での人権福祉理念の変遷②
11	個人の権利を守る制度―虐待防止
12	個人の権利を守る制度―サービス利用に関する制度
13	個人の権利を守る制度―消費者保護に関する制度
14	個人の権利を守る制度―その他の個人の権利を守る制度
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ					担当者名		勅使河原　航			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	この領域では、人間の多面的な理解を基礎に介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎、チームで働く能力の基礎を養うことが目的である。本教科では、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。また、人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できることを目指す。
到達目標	・対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を取得する。 ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	勅使河原航（通所介護事業所で社会福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座１「人間の理解」第2版	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、人間関係とコミュニケーションとは
2	人間と人間関係　―　自分と他者の理解①
3	人間と人間関係　―　自分と他者の理解②
4	社会心理額からみた人間関係
5	人間関係とストレス
6	対人関係におけるコミュニケーション　―　基本構造
7	対人関係におけるコミュニケーション　―　手段①
8	対人関係におけるコミュニケーション　―　手段②
9	人間関係の発展・後退とコミュニケーション
10	対人援助における基本的態度①
11	対人援助における基本的態度②
12	援助的人間関係の形成とバイステックの7つ原則
13	組織とは
14	組織におけるコミュニケーション　―　条件と特徴、情報の流れ
15	組織におけるコミュニケーション　―　求められるコミュニケーション　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ				担当者名		勅使河原　航			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	本教科では、介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。さらに、介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営基本の理解を目指す。
到達目標	・人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションの基礎的な知識を身につける。 ・介護の質を高めるために必用な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を身につける。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	勅使河原航（通所介護事業所にて社会福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座１「人間の理解」第2版	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、「人間関係とコミュニケーションⅠ」振り返り
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義①
3	介護実践におけるチームマネジメントの意義②
4	ケアを展開するためのチームマネジメント①
5	ケアを展開するためのチームマネジメント②
6	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント⑤
11	組織の目標達成のためのチームマネジメント①
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント②
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント③
14	組織の目標達成のためのチームマネジメント④
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	社会と制度の理解Ⅰ					担当者名		安川　渉寛			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	当該科目では主に、社会保障制度の概要、歴史、現代社会における課題、年金保険、医療保険、労働保険(雇用保険と労働者災害補償保険)、生活保護について学習するとともに、その中でも介護実践に関する諸制度等については理解が深まるよう展開する。
到達目標	・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 ・介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。
成績評価	定期試験70%、平常点(出席率、態度、意欲、中間テスト等)30%
その他	安川渉寛(障害者総合支援法における相談支援業務の経験等有)

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解(第2版)	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、社会保障制度の概要 ※「地域福祉論」の小テストを活用してフィードバック
2	社会保障の基本的な考え方(目的、役割、ライフサイクル)
3	日本の社会保障制度の発達(歴史的背景、成り立ち、社会保障構造改革)
4	日本の社会保障制度のしくみ(仕組み、構造、社会保険と社会扶助、給付と負担)
5	現代社会と社会保障制度(少子化、高齢化、現代的課題)
6	年金保険制度①(概要、仕組み、体系的理解)
7	年金保険制度②(各種年金の種類)
8	年金保険制度③(課題、まとめ)
9	中間のまとめ(中間テストを活用してフィードバック)
10	医療保険制度①(概要、構図、体系的理解)
11	医療保険制度②(各種保険制度、まとめ)
12	労働保険制度(雇用保険と労働者災害補償保険の概要)
13	労働保険制度(雇用保険と労働者災害補償保険の概要)
14	公的扶助(生活保護制度全般)
15	まとめ(振り返り、小テスト)

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	社会と制度の理解Ⅱ					担当者名		安川　渉寛			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	当該科目では主に、高齢者保健福祉、介護保険法、障害者総合支援法及びその関連施策について学習するとともに、その中でも介護実践に関する諸制度等については理解が深まるよう展開する。
到達目標	・高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。
成績評価	定期試験70% 平常点(出席率、態度、意欲、中間テスト等)30%
その他	安川渉寛(障害者総合支援法における相談支援業務の経験等有)

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解(第2版)	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、社会と制度の理解Ⅰの振り返り
2	高齢者保健福祉の動向(歴史、役割、法体系)
3	介護保険制度①(概要、目的、制度前の背景)
4	介護保険制度②(仕組み、保険者と被保険者、財源と負担)
5	介護保険制度③(要介護認定からサービス利用までの流れ、サービスの内容)
6	介護保険制度④(介護支援専門員の役割、地域包括ケアシステム、まとめ)
7	中間のまとめ(中間テストを活用してフィードバック)
8	障害者総合支援制度①(障害者福祉の動向)
9	障害者総合支援制度②(障害者の定義、歴史)
10	障害者総合支援制度③(制度の基礎理解、行政の役割、サービスの内容)
11	障害者総合支援制度④(障害支援区分認定調査からサービス利用までの流れ)
12	障害者総合支援制度⑤(相談支援事業の役割、障害児へのサービス、まとめ)
13	介護実践関連諸制度①(権利擁護、住生活)
14	介護実践関連諸制度②(孤立防止、保健医療)
15	まとめ(振り返り、小テスト)

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	地域福祉論					担当者名		勅使河原　航			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	介護分野において中心的な制度である介護保険制度と障害者自立支援制度について、制度が施行された背景や根拠となる法律、仕組みについて学び、地域社会における高齢者や障害者の生活について理解する。そして、地域社会の変化や問題について近年の動向を読み介護実践につなげる力を身につけることを目指す。
到達目標	・対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。 ・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や、権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
成績評価	定期試験80%、課題10%、授業態度10%
その他	勅使河原航（社会福祉協議会で社会福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座２「社会の理解」第2版	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、地域とは
2	社会と生活のしくみ―生活の基本機能
3	社会と生活のしくみ―ライフスタイルの変化
4	社会と生活のしくみ―家族の機能と役割
5	社会と生活のしくみ―社会・組織の機能と役割
6	社会と生活のしくみ―地域、地域社会
7	社会と生活のしくみ―地域生活における生活支援
8	地域福祉の発展①
9	地域共生社会①理念
10	地域共生社会②取り組み
11	地域共生社会の実現
12	地域共生社会の実現　まとめ
13	地域包括ケア①理念
14	地域包括ケア②システム
15	地域包括ケア③　　まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	保健体育理論Ⅰ					担当者名		得本　啓次			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。
到達目標	・健康増進におけるスポーツの意義について説明できる。 ・子供から高齢者まで健康増進を目的としたスポーツの効果を理解できる。
成績評価	レポート30%、試験70%
その他	本講義は生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	改訂版　生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人　日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人　国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本	公益財団法事人　健康スポーツ連盟・編集	学校法人　国際学園

回数	授　業　計　画
1	生涯スポーツ　ガイダンス、生涯スポーツの必要性
2	トレーニング法　イメージトレーニングの基礎知識とマインドセット
3	トレーニング法　イメージ結合法の理解と実践
4	トレーニング法　イメージトレーニングの実践、発表
5	スポーツ心理学　カウンセリング、人間の心身発達理論
6	スポーツ心理学　コミュニケーションスキル種類を理解し、方法論を学び指導に繋げる
7	スポーツマネージメント　チームマネージメント、マーケティング戦略を理解し健康社会の貢献
8	解剖生理学　解剖学、生理学の概要、骨の組織構造
9	解剖生理学　筋肉の構造とはたらき、筋収縮のメカニズム
10	解剖生理学/運動指導　子どもの身体の特徴と子どもの運動指導
11	解剖生理学/運動指導　高齢者の身体の特徴と高齢者の運動指導
12	健康科学　日常生活での運動の重要性や姿勢の大切さ
13	生涯スポーツ　日常生活で取り組める運動を学び実践
14	関係法規・試験　生涯スポーツトレーナーに関わる法律や関連する法律・試験実施
15	総括　まとめと資格試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	保健体育理論Ⅱ					担当者名	得本　啓次					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。
到達目標	・障がい者スポーツの歴史的背景を理解できる。 ・スポーツの実践を通して、指導方法を理解できる。
成績評価	レポート30%、試験70%
その他	本講義は生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得を目指す、開講の順番は変更する可能性があります。

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	改訂版　生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法事人　健康スポーツ連盟・編集	学校法人　国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本、車いすフィットネストレーナー教本、ティボール	公益財団法事人　健康スポーツ連盟・編集	学校法人　国際学園

回数	授　業　計　画
1	スポーツ心理　ガイダンス、よりよい人間関係を築くための心理学
2	栄養学　スポーツ栄養学三大栄養素と五大栄養素
3	運動指導　ティーボール、ルール、審判方法、運営方法、指導法
4	運動指導　ティーボール、捕る投げる打つの基本動作
5	運動指導　ティーボール、試合形式練習と試合運営
6	コンディショニング　基礎理論、アライメントチェック
7	指導法　トレーニング指導法理論、トレーニング方法の理解
8	指導法　トレーニング指導法実施、グループワーク
9	スポーツ医学　筋膜リリースと疲労回復
10	スポーツ医学　筋膜リリースのセルフマッサージ
11	コンディショニング　　コンディショニング体操
12	運動　静的ストレッチ、動的ストレッチの実践
13	運動指導　子どもの運動指導方法と特性と留意点
14	運動指導　高齢者の運動指導方法の特性と留意点
15	総括　まとめと資格試験対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅰ①					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。「尊厳の保持」「自立支援」という介護福祉の基本となる理念を理解するとともに「介護を必要とする人」がその人らしく生活できるように介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。
到達目標	・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。
成績評価	定期試験80%、課題提出10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、介護とは
2	介護福祉の成り立ち
3	介護福祉を取り巻く状況
4	介護福祉の歴史①　老人福祉法制定まで
5	介護福祉の歴史②　1970～80年代
6	介護福祉の歴史③　1990年代
7	介護福祉の歴史④　2000年代以降
8	介護福祉の歴史　まとめ
9	介護福祉の基本理念（尊厳、自立）
10	社会福祉士及び介護福祉士法①
11	社会福祉士及び介護福祉士法②
12	介護福祉士の活動の場と役割
13	介護福祉士に求められる役割とその養成
14	介護福祉士を支える団体
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護の基本Ⅰ②					担当者名	鄭　瑞河					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。「尊厳の保持」「自立支援」という介護福祉の基本となる理念を理解するとともに「介護を必要とする人」がその人らしく生活できるように介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。
到達目標	・介護福祉の専門職とし倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を習得する。 ・ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの観点から、個々の状況に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。
成績評価	定期試験80%、課題提出10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、振り返り、倫理とは
2	介護福祉士の倫理
3	日本介護福祉士会の倫理綱領
4	自立に向けた介護①
5	自立に向けた介護②
6	ICFの考え方①
7	ICFの考え方②
8	自立支援とリハビリテーション①　リハビリとは
9	自立支援とリハビリテーション②　リハビリテーションの実践
10	自立支援とリハビリテーション③　介護福祉士の役割
11	自立支援と介護予防①　介護予防の概要
12	自立支援と介護予防②　種類と展開
13	自立支援と介護予防③　実際
14	自立支援と介護予防④　介護福祉士の役割
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅱ①					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。介護の基本Ⅱ①では、介護福祉を必要とする人や、その生活を支えるしくみについて事例を用いて学びを深める。また、多職種協働による介護を実践するために、協働する多職種の機能と役割について学ぶ。
到達目標	・介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関りを理解する。 ・介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマルな支援を理解する。 ・他職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。
成績評価	定期試験80%、課題10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、私たちの生活の理解
2	介護福祉を必要とするひとたちの暮らし
3	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
4	利用者の生活を支えるしくみ
5	生活を支えるフォーマルサービスとは
6	生活を支えるインフォーマルサービスとは
7	利用者の生活を支えるしくみ　まとめ
8	多職種連携・協働とは、必要性
9	多職種連携・協働に求められる基本的な能力
10	保健・医療・福祉職の役割と機能
11	多職種連携・協働の実際
12	多職種連携・協働　まとめ
13	第1章　振り返り
14	第2章　振り返り
15	第4章　振り返り　総まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅱ②					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。介護の基本Ⅱ②では、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて、その必要性を理解する。また、介護従事者の安全において、自身のこころと身体の健康管理と、労働環境の両面から学ぶ。
到達目標	・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のため基礎的な知識や事故への対応を理解することができる。 ・介護従事者が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解することができる。
成績評価	定期試験80%、課題10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、介護の基本Ⅱ①振り返り
2	介護における安全の確保①
3	介護における安全の確保②
4	リスクマネジメント①
5	リスクマネジメント②
6	感染症対策
7	健康管理の意義と目的①
8	健康管理の意義と目的②
9	こころの健康管理①
10	こころの健康管理②
11	身体の健康管理①
12	身体の健康管理②
13	労働環境の整備①
14	労働環境の整備②
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅲ					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

授業概要	介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職として能力と態度を養う学習とする。介護実践の基礎となる知識を「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」では理論的に学び、「介護の基本Ⅲ」においてはそれを振り返り、より理解を深めることを目標とする。 また、国家試験に向けて、総合的な基礎知識・問題に対する読解力を習得する。
到達目標	・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての基本的な知識と技術を習得する。 ・各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。
成績評価	定期試験70%、授業態度30%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	最新・介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	「介護の基本Ⅰ」振り返り
2	「介護の基本Ⅰ」振り返り
3	確認問題
4	確認問題
5	解説
6	解説
7	第1回中央法規模擬試験の解説
8	第1回中央法規模擬試験の解説
9	「介護の基本Ⅰ」振り返り
10	「介護の基本Ⅰ」振り返り
11	「介護の基本Ⅰ」振り返り
12	「介護の基本Ⅰ」振り返り
13	確認問題
14	確認問題
15	解説
16	解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護の基本Ⅲ					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

回数	授　業　計　画
17	学力評価試験の解説
18	学力評価試験の解説
19	「介護の基本Ⅱ」振り返り
20	「介護の基本Ⅱ」振り返り
21	「介護の基本Ⅱ」振り返り
22	「介護の基本Ⅱ」振り返り
23	確認問題　解説
24	確認問題　解説
25	第2回中央法規模擬試験の解説
26	第2回中央法規模擬試験の解説
27	解説、国試前準備
28	解説、国試前準備
29	国家試験解説
30	国家試験解説　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	コミュニケーション技術A				担当者名	百留　哲					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	利用者とのコミュニケーション技術,家族とのコミュニケーション方法,介護におけるチームのコミュニケーションの重要性と技術など、介護実践における基本的なコミュニケーションの考え方を学ぶ。
到達目標	・介護福祉士に求められている役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ・介護を実践する対象、場に限らず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術を習得する。 ・本人家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
成績評価	定期試験：80% 課題提出：10% 授業態度：10%
その他	百留　哲　介護福祉士・介護支援専門員として介護福祉施設に勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座５「コミュニケーション技術」第2版	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・介護におけるコミュニケーション
2	援助関係とコミュニケーション
3	コミュニケーション態度に関する基本技術
4	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
5	目的別のコミュニケーション技術
6	集団におけるコミュニケーション技術
7	コミュニケーションの基本　まとめ
8	家族とのコミュニケーション
9	介護におけるチームのコミュニケーション
10	報告・連絡・相談の技術
11	記録の技術
12	会議・議事進行・説明の技術
13	事例検討に関する技術
14	情報の活用と管理のための技術
15	確認問題・解説　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	コミュニケーション技術B					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	コミュニケーションの基本的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の定義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。
到達目標	・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。 ・家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュケーションの基本的な技術を習得する。 ・情報を適切にまとめ、発言するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解することができる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座5「コミュニケーション技術」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　コミュニケーション障害の原因
2	コミュニケーション障害のアセスメント コミュニケーション支援の基本
3	対象者の特性に応じたコミュニケーション 視覚障害のある人への支援
4	聴覚障害のある人への支援
5	構音障害、失語症のある人への支援
6	認知症、精神障害のある人への支援
7	知的障害、発達障害のある人への支援
8	高次機能障害のある人への支援
9	家族とのコミュニケーション
10	介護におけるチームのコミュニケーション　　中間試験・解説 報告・連絡・相談の技術
11	会議・議事進行・説明の技術
12	全体のまとめ
13	国家試験問題（過去問・模擬試験）、解説
14	国家試験問題（過去問・模擬試験）、解説
15	期末試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術Ⅰ					担当者名		香坂　美穂、石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					
授業概要	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。 尊厳の保持や自立支援・生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 応急手当について・災害時における介護福祉職の役割についてを学ぶ。										
到達目標	・ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身活性化のための支援することを理解できる。 ・住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための住環境の整備について基礎的な知識を理解することができる。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠について、説明できる能力を習得する。 ・介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解し、対象者に応じた福祉用具を選択・活用する意識・技術を習得する。										
成績評価	授業態度　20%（参加意欲・発言・課題提出） 定期試験　80%（中間レポート・期末試験）										
その他	香坂　美穂　　介護老人保健施設・看護小規模多機能型居宅にて介護福祉士として勤務経験あり										

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	授業についてオリエンテーション 生活支援の理解　生活支援の基本的な考え方
2	生活支援の基本的な考え方
3	生活支援と介護過程
4	生活支援とチームアプローチ
5	居住環境の整備 　住まいの役割と機能・生活空間
6	快適な室内環境・安全に暮らすための生活環境
7	居住環境の整備における多職種との連携
8	自立に向けた移動の介護 　自立した移動とは
9	自立に向けた移動・移乗の介護(移動・移乗の基本的理解　ボディメカニクス)
10	自立に向けた移動・移乗の介護(起居動作・安楽な姿勢・体位を保持する介助　スライディングシート)
11	自立に向けた移動・移乗の介護(歩行の介助・車いすの移乗と移動の介助・移動・移乗のための道具と用具)
12	移動の介護における多職種との連携
13	福祉用具の意義 　生活支援における福祉用具の重要性①　福祉用具体験学習（福祉用具プラザ）
14	生活支援における福祉用具の重要性②　福祉用具体験学習（福祉用具プラザ）
15	福祉用具の種類 　適切な福祉用具を選ぶための視点
16	授業振り返り　中間試験・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術Ⅰ					担当者名		香坂　美穂、石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

回数	授　業　計　画
17	施設での生活支援　デイサービス・デイケアサービス(高齢者疑似体験)
18	施設での生活支援　デイサービス・デイケアサービス(高齢者疑似体験)
19	施設での生活支援　デイサービス・デイケアサービス(食事・排泄・入浴)
20	施設での生活支援　デイサービス・デイケアサービス(余暇活動)
21	自立に向けた家事援助 自立した家事とは
22	自立向けた家事の介護 家事の介護における多職種との連携
23	復習　自立に向けた移動・移乗の介護(歩行介助)
24	復習　自立に向けた移動・移乗の介護(杖歩行介助(屋外・屋内))
25	復習　自立に向けた移動・移乗の介護(車いす介助(屋内))
26	復習　自立に向けた移動・移乗の介護(車いす介助(屋外))
27	応急手当の知識と技術 応急手当について
28	応急手当の実際
29	災害における生活支援 災害時における介護福祉職の役割
30	災害時における生活支援の実際

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術Ⅱ					担当者名		香坂　美穂、石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				
授業概要	自立に向けた身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄・休息・睡眠を利用者の状態に応じた介護の方法、それぞれの一連の流れを理解したうえで具体的な介助方法を学ぶ。 人生の最終段階における介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
到達目標	・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠について、説明できる能力を習得する。 ・健康を維持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解す炉ことができる。 ・人生最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解することができる。										
成績評価	試験　期末テスト（介護技術演習50%　筆記試験40%） 授業への取り組み　10%（課題・レポート提出）										
その他	香坂　美穂　　介護老人保健施設・看護小規模多機能型居宅にて介護福祉士として勤務経験あり										

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	新介護福祉士養成講座12・14　発達と老化の理解・障害の理解	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	授業についてのオリエンテーション 自立に向けた身じたくの介護　自立した身じたくとは
2	自立に向けた身じたくの介護
3	自立に向けた食事の介護 自立した食事とは
4	自立に向けた食事の介護
5	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた入浴・清潔保持とは
6	自立に向けた入浴・清潔保持の介護(入浴の可否と清潔にする方法と選択・介助方法)
7	自立に向けた入浴・清潔保持の介護(道具・用具)
8	自立に向けた排泄の介護 自立した排泄とは
9	自立に向けた排泄の介護(排泄方法の選択と方法)
10	自立に向けた排泄の介護(排泄に関する様々な対応・介助)
11	休息・睡眠の介護 休息・睡眠とは
12	休息・睡眠の介護(室内環境の調整・休息と睡眠環境を整える・ベッドメイキング)
13	休息・睡眠の介護(特殊寝台と付属用具・ベッドメイキング)
14	休息・睡眠の介護(睡眠障害とその支援・ベッドメイキング)
15	多職種との連携 身じたく・食事の介護
16	復習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術Ⅱ					担当者名		香坂　美穂、石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

回数	授　業　計　画
17	多職種との連携 入浴・清潔保持・排泄の介護
18	復習
19	多職種との連携 休息・睡眠の介護　着脱・ベッドメイキング
20	復習
21	人生の最終段階における介護
22	人生の最終段階の意義と介護の役割
23	人生の最終段階における介護
24	人生の最終段階に介護における多職種との連携
25	生活支援技術 実技試験前演習　ロールプレイ
26	生活支援技術 実技試験前演習　ロールプレイ
27	生活支援技術国家試験対策①
28	生活支援技術国家試験対策②
29	生活支援技術 実技試験
30	生活支援技術 実技試験

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅲ					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。また、障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。
到達目標	・介護福祉士に求められる悪割と機能を理解し、専門職としての態度を習得する。 ・本人・家族との関係性の構築やチームケアを実践しるための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠について、説明できる能力を習得する。 ・各領域で学んだ意識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を習得する。
成績評価	期末試験　90% 授業への取り組み　10%（授業態度・課題提出）
その他	（有）石橋　真由美　長期療養型医療施設において介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7・8　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	新介護福祉士養成講座1　NO14　障害の理解 NO11　こころとからだのしくみ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション：授業概要 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは
2	障害や疾病とともに生活する人を支える生活支援とは
3	さまざまな障害や疾病について①　グループワーク
4	さまざまな障害や疾病について②　グループワーク
5	視覚障害に応じた介護①
6	視覚障害に応じた介護②国家試験対策
7	肢体不自由に応じた生活支援技術①
8	肢体不自由に応じた生活支援技術②
9	聴覚・言語障害に応じた介護①
10	聴覚・言語障害に応じた②介護国家試験対策
11	重複障害（盲ろう）に応じた介護　DVD鑑賞（ヘレンケラー）
12	重複障害（盲ろう）に応じた介護　DVD鑑賞（ヘレンケラー）レポート作成
13	【内部障害】 心臓機能障害に応じた介護①
14	【内部障害】 心臓機能障害に応じた介護②国家試験対策
15	【内部障害】 呼吸器障害に応じた介護①
16	【内部障害】 呼吸器障害に応じた介護②国家試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術Ⅲ					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

回数	授　業　計　画
17	【内部障害】 腎臓機能障害に応じた介護①
18	【内部障害】 腎臓機能障害に応じた介護②国家試験対策
19	【内部障害】 膀胱・直腸機能障害に応じた介護①
20	【内部障害】 膀胱・直腸機能障害に応じた介護②国家試験対策
21	【内部障害】 小腸機能障害に応じた介護①
22	【内部障害】 小腸機能障害に応じた介護②国家試験対策
23	【内部障害】 HIVによる免疫機能障害に応じた介護
24	【内部障害】 肝臓機能障害に応じた介護　国家試験対策
25	知的障害に応じた介護　国家試験対策
26	精神障害に応じた介護　国家試験対策
27	高次脳機能障害に応じた介護・【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護 パーキンソン病に応じた介護　国家試験対策
28	発達障害に応じた介護・【難病】悪性関節リュウマチに応じた介護 筋ジストロフィーに応じた介護　国家試験対策
29	生活支援技術Ⅲ　振り返り①　第37回国家試験解説　自己採点
30	生活支援技術Ⅲ　まとめ　期末試験の説明

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術（栄養・調理）	担当者名	尾辻　日々来、緒方　優里子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

授業概要	人間が健康な生活を営むために必要な五大栄養素の働きを理解する。高齢者・障害者の身体的特徴を考慮しながら、介護福祉士が支援をするために必要な知識を養う。また、調理実習を通して調理の基礎を習得し、高齢者・障害者が食べやすい料理について学ぶ。
到達目標	・介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を身につける。
成績評価	レポート提出30% 授業・実習態度10% 期末試験60%
その他	尾辻　日々来:特別養護老人ホームにて管理栄養士として勤務、緒方　優里子：ケアハウスにて管理栄養士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座8「生活支援技術Ⅲ」		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	食事の意義と食文化
2	食支援と多職種連携
3	高齢者の食事の特徴と注意点①
4	高齢者の食事の特徴と注意点②
5	栄養・栄養素
6	栄養・栄養素
7	基本の献立作成
8	食品衛生
9	高齢者の食事の特徴と注意点③
10	高齢者の食事の特徴と注意点④（復習）
11	栄養素の働き①
12	栄養素の働き②
13	食中毒
14	食中毒
15	調理実習　　準備
16	調理実習　　準備

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術（栄養・調理）	担当者名	尾辻　日々来、緒方　優里子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

回数	授　業　計　画
17	調理実習
18	調理実習
19	調理実習
20	調理実習
21	定期試験・国家試験対策
22	定期試験・国家試験対策
23	病態栄養
24	病態栄養
25	調理実習
26	調理実習
27	調理実習
28	調理実習
29	調理実習
30	調理実習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術（家事の介護）					担当者名		柴田　仁子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	生活を円滑に快適にするためには、家事の知識や技術は重要である。毎日行われているさまざまな家事はその人らしい生活の継続を支援することになる。また、自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきことについて理解する。
到達目標	・対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。
成績評価	中間試験　（課題）　20% 期末試験　80%
その他	柴田　仁子　障害者支援施設　訪問介護　グループホーム

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅰ　Ⅰ	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	家事の基本　大事典	成美堂出版編集部	成美堂出版

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　生活支援と家事支援　ライフステージとライフスタイル
2	家事とは何か　家事の種類　家事をする意味　自立した家事の介護
3	防災の基本　災害時における生活支援
4	料理の基本　調理の介護　調理の意義　献立の考え方　季節・行事の食事
5	食材の切り方　調理法の種類　食材の保存法　衛生管理と食中毒の予防
6	洗濯の基本　洗濯の方法　洗濯機と洗剤の種類と使い方　洗濯物の干し方　衣服の洗濯表示
7	衣服の収納・片付けの基本　衣服のたたみ方　季節に応じた衣服管理(衣替え)　ー中間試験ー
8	掃除の基本　掃除・ごみ捨ての介護　場所別の掃除の仕方　洗剤の種類
9	寝具・衣服・住宅設備の衛生管理ー在宅と施設の違い
10	衣服の補修の介護　縫い方の種類　ボタン付け、裾上げ
11	季節の行事の介護　サンタクロースの飾り製作
12	買い物の介護　買い物の方法と支援　家庭経営家計の管理
13	四季の行事に応じた家事支援　歳末と正月
14	国家試験対策　家事の介護のまとめ
15	生活を彩る季節の行事の介護

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	生活支援技術（生活支援と文化）	担当者名	柴田　仁子、北田　清美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	要介護者の生活を支える基本的な考え方や支援のあり方を理解し、その人に寄り添い「生活の質」を高める支援方法の知識を得る。
到達目標	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行う知識・技術を習得する。
成績評価	レポート提出　製作実技(作品提出)
その他	柴田　仁子　障害者支援施設　訪問介護　グループホーム、北田　清美　介護老人保健施設

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	生活支援技術Ⅰ	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	はじめての行事絵本	長久保浩子	パイインターナショナル

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　　日本の文化とは
2	日本の四季　生活の質を高める生活支援
3	年中行事の意味や由来　行事を楽しむ
4	「端午の節句」折り紙　兜
5	季節を楽しむ歌唱
6	和紙を楽しむ
7	漢字を楽しむ
8	要介護高齢者の楽しみについて
9	製作、壁面を彩る季節の飾り　春夏秋冬①
10	製作、壁面を彩る季節の飾り　春夏秋冬②
11	授業内容について説明 自己紹介とコミュニケーションについて①
12	コミュニケーション方法について
13	生活の質を高めるためのフットケアの意義について①
14	生活の質を高めるためのフットケアの意義について演習①
15	生活の質を高めるためのフットケアの意義について演習②

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護過程Ⅰ①					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。
到達目標	・利用者の多様なニーズに応じた介護過程の展開技術を身につける。
成績評価	定期試験70%、課題提出30%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、介護過程とは
2	介護過程の全体像
3	介護過程における事例検討・事例研究の必要性
4	介護過程の展開
5	アセスメント（情報収集）①
6	アセスメント（情報収集）②
7	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）①
8	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）②
9	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）③
10	振り返り
11	介護計画の立案①
12	介護計画の立案②
13	介護の実施
14	評価
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護過程Ⅰ②					担当者名	鄭　瑞河					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。
到達目標	・利用者の多様なニーズに応じた介護過程の展開技術を身につける。 ・生活支援技術のプロセスについて根拠に基づく説明ができる。
成績評価	定期試験70%、課題提出30%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	振り返り、介護過程とケアマネジメント
2	ケアマネジメントと個別援助計画の関係性
3	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
4	利用者の生活と介護過程の展開①
5	利用者の生活と介護過程の展開②
6	利用者の生活と介護過程の展開③
7	利用者の生活と介護過程の展開④
8	介護過程の実践的展開①　事例１
9	介護過程の実践的展開②
10	介護過程の実践的展開③
11	介護過程の実践的展開④　事例２
12	介護過程の実践的展開⑤
13	介護過程の実践的展開⑥
14	介護過程の実践的展開⑦
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護過程Ⅱ					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎知識理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術など他の科目との連携を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。
到達目標	・本人の望む生活の実践に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得できる。
成績評価	記録物（介護過程の展開：授業中の事例・実習中の事例：60% 課題提出：30% 授業態度：10%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程　第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	介護福祉士国試ナビ	いとう総研資格取得支援センター	中央法規出版

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション 介護過程Ⅰの振り返り　介護過程の理解
2	介護過程の展開の理解 事例に沿った介護過程の展開
3	事例（１）に沿った介護過程の展開 個人ワーク：アセスメントシート作成
4	事例（１）に沿った介護過程の展開 個人ワーク：個別援助計画　長期目標と短期目標
5	事例（１）に沿った介護過程の展開 個人ワーク：個別援助計画　実施及び結果　考察
6	事例（２）に沿った介護過程の展開 個人ワーク：アセスメントシート作成
7	事例（２）に沿った介護過程の展開 個人ワーク：個別援助計画　長期目標と短期目標
8	事例（２）に沿った介護過程の展開 個人ワーク：個別援助計画　実施及び結果　考察
9	事例に沿った介護過程の展開 個人発表
10	事例に沿った介護過程の展開 個人発表
11	事例に沿った介護過程の展開 個人ワーク：実際の利用者の介護過程の展開
12	事例に沿った介護過程の展開 実習中の介護過程の展開　修正
13	事例に沿った介護過程の展開 実習中の介護過程の展開　修正
14	事例に沿った介護過程の展開 実習中の介護過程の展開　修正
15	事例に沿った介護過程の展開 記録の印刷・製本

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護過程Ⅲ					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

授業概要	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。また、国家試験に向けて、総合的な基礎知識・問題に対する読解力を習得する。
到達目標	・各領域で学んだ知識・技術・思考を統合し、根拠に基づいたアセスメントができる。 ・障害やその症状を理解し、個別性に合わせた介護計画の立案ができる。
成績評価	定期試験70%、授業態度30%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　介護過程Ⅰの振り返り
2	介護過程Ⅰの振り返り
3	介護過程Ⅰの振り返り
4	介護過程Ⅰの振り返り
5	介護過程Ⅰの振り返り
6	介護過程Ⅰの振り返り
7	介護過程Ⅰの振り返り
8	全国模擬試験の解説
9	全国模擬試験の解説
10	介護過程Ⅰの振り返り
11	介護過程Ⅰの振り返り
12	介護過程Ⅰの振り返り
13	介護過程Ⅰの振り返り
14	まとめ
15	国家試験対策
16	国家試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護過程Ⅲ					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

回数	授　業　計　画
17	事例検討　事例①
18	事例検討　事例①
19	事例検討　事例①
20	事例検討　事例①
21	事例検討　事例①
22	事例検討　事例②
23	事例検討　事例②
24	事例検討　事例②
25	事例検討　事例②
26	事例検討　事例②
27	事例検討　事例②
28	事例検討　事例②
29	介護過程　総まとめ
30	介護過程　総まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護総合演習Ⅰ					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習で学びを深化させるとともに、介護の専門職としての思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。
到達目標	・介護実習Ⅰにおける実習の意義について理解することができる。 ・実習前・中・後に及び介護実習のプロセスを理解することができる。 ・介護実習Ⅰ-A・B・C、介護実習Ⅱまで介護実習全体の学びを理解することができる。
成績評価	実習Ⅰ段階　施設実習評価　50% 授業への取り組み　50%(授業態度・実習日誌作成・提出物)
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2024)		

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　介護総合演習の意義と目的いついて説明
2	介護実習の種類（実習Ⅰ・Ⅱ）おもな内容
3	介護実習での学びのポイント
4	実習前指導① 介護実習提出書類の作成・確認
5	実習前指導② 実習施設で行われている生活支援の理解　（身体介護・生活支援）
6	実習前指導③ 実習施設で行われている生活支援の理解（余暇活動について）
7	実習前指導④　持参物の確認・実習日誌の書き方。（目標の立て方）
8	実習前指導⑤ 実習先施設の概要について学ぶ(実習先発表）実習指導者との顔合わせ準　備
9	実習前指導⑥ 利用者とのコミュニケーション方法
10	実習前指導⑦　実習の心得について・実習時持参物確認確認
11	実習Ⅰ-A 振り返り①　施設へのお礼状作成
12	実習Ⅰ-A 振り返り②　実習報告書作成
13	実習Ⅰ-A 振り返り③　実習報告書作成
14	実習Ⅰ-A 振り返り④　実習報告書作成　提出
15	実習Ⅰ-A 振り返り⑤　実習報告書提出　　次回実習Ⅰ-Bについて説明

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護総合演習Ⅰ					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職としての思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習とする。
到達目標	・介護実習Ⅰにおける実習の意義について理解することができる。 ・実習前・中・後に及び介護実習のプロセスを理解することができる。 ・介護実習Ⅰ-A・B・C、介護実習Ⅱまで介護実習全体の学びを理解することができる。
成績評価	各施設実習評価　50% 授業への取り組み　50%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2024)		

回数	授　業　計　画
1	介護実習前オリエンテーション（施設への提出物確認・事前訪問についての注意事項等）
2	実習Ⅰ-B（グループホーム）実習前指導①
3	実習前指導②
4	実習Ⅰ-B（グループホーム）振り返り　お礼状作成
5	実習Ⅰ-C（障害者支援施設）実習前指導①
6	実習前指導②
7	実習前指導③
8	実習Ⅰ-C　振り返り　お礼状作成
9	実習Ⅰ　報告会準備①
10	実習Ⅰ　報告会準備②
11	実習Ⅰ　報告会準備③
12	実習Ⅰ　報告会準備④
13	実習Ⅰ　報告会準備⑤
14	実習Ⅰ　報告会準備⑥
15	実習Ⅰ　報告会準備⑦

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護総合演習Ⅱ					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

授業概要	実習Ⅱでは個別ケアを理解するため、介護過程に基づいた専門的・計画的なものであることを理解し、体験することができる。介護過程の展開から、専門的で計画的な介護サービスを提供する能力を身につけることができる。さらに、実習を振り返り、介護の意識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。
到達目標	・様々な生活の場において，個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，介護技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じて，チームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。
成績評価	施設実習評価50%、授業態度20%、提出物30%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2024)		

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、実習Ⅰ振り返り
2	実習前指導①　実習Ⅱについて
3	実習前指導②　実習に向けた姿勢等・計画・目標作成
4	実習前指導③　介護過程展開の計画①
5	実習前指導④　介護過程展開の計画②
6	実習前指導⑤　介護過程展開の計画③
7	実習前指導⑥　介護過程展開の計画④
8	実習前指導⑦　介護過程展開の計画⑤
9	実習前指導⑧　介護過程展開の計画⑥
10	実習前指導⑨　介護過程展開の計画⑦
11	実習前指導⑩　介護過程展開の計画⑧
12	実習準備①
13	実習準備②
14	実習準備③
15	実習準備④

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護総合演習Ⅱ				担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

回数	授　業　計　画
17	事例研究とは
18	事例研究の実践
19	事例研究の実践
20	事例研究の実践
21	事例研究の実践
22	事例研究の実践
23	事例研究の実践
24	事例研究の実践
25	事例研究の実践
26	事例研究の実践
27	事例研究の実践
28	事例研究の実践
29	事例研究の実践
30	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護実習					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				15	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						87	100				

授業概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。
到達目標	・対象者の生活と地域との関りや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び、理解することができる。
成績評価	実習Ⅰ段階　施設実習評価　90% 授業への取り組み　10%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2024)		

回数	授　業　計　画
1	実習Ⅰ段階　Ⅰ-A　6月17日～7月5日（15日間）デイサービス・デイケアサービス・小規模多機能居宅介護
2	Ⅰ-B　10月7日～10月18日（10日間）グループホーム
3	Ⅰ-C　11月18日～11月29日（10日間）障害者支援施設
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	介護実習					担当者名		石橋　真由美、百留　哲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				15	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								100	163		

授業概要	介護実習では、個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける学習とする。
到達目標	・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学び理解することができる。
成績評価	施設の評価100%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護事業所で介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2024)		

回数	授　業　計　画
1	実習Ⅱ介護老人福祉施設・介護老人保健施設 令和7年7月上旬～8月上旬　25日間
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	障害の理解					担当者名		柴田　仁子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を前提として、障害のある人の身体機能や心理をを理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習する。 障害の概念や基本的理念を踏まえ、障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、生活を支えるための社会資源、関係機関との連携、家族への支援について学びを深める。
到達目標	・障害のある人の生活を支援するという観点から，障害の概念や，障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解することができる。 ・医学的・心理的側面から，障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができる。 ・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ，機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し，QOLを高める支援の必要性について理解することができる。 ・障害のある人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながることを理解する。
成績評価	定期試験：80% 課題提出：10% 授業態度：10%
その他	柴田　仁子　障害者支援施設　訪問介護　グループホーム

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座14　「障害の理解」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　受験ワークブック2023　下	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　1年次の復習
2	視覚障害
3	聴覚・言語障害
4	重複障害、重症心身障害
5	内部障害
6	内部障害
7	ー中間試験―　解説
8	連携と協働
9	家族への支援
10	障害福祉に関連する制度①
11	障害福祉に関連する制度②
12	まとめ　肢体不自由・視覚障害・聴覚障害
13	まとめ　知的障害・精神障害・高次脳機能障害・発達障害
14	まとめ　内部障害・難病
15	まとめ　障害福祉に関連する制度

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	障害の理解	担当者名	柴田　仁子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を前提として、障害のある人の身体機能や心理をを理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習する。 障害の概念や基本的理念を踏まえ、障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、生活を支えるための社会資源、関係機関との連携、家族への支援について学びを深める。
到達目標	・障害のある人の生活を支援するという観点から，障害の概念や，障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解することができる。 ・医学的・心理的側面から，障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができる。 ・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ，機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し，QOLを高める支援の必要性について理解することができる。 ・障害のある人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につなげることの重要性を理解することができる。
成績評価	定期試験：80% 課題提出：10% 授業態度：10%
その他	柴田仁子　障害者支援施設　訪問介護　グループホーム

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解　第2版	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　受験ワークブック2023　下	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　1年次の復習
2	視覚障害
3	聴覚・言語障害
4	重複障害、重症心身障害
5	内部障害
6	内部障害
7	ー中間試験―　解説
8	連携と協働
9	家族への支援
10	障害福祉に関連する制度①
11	障害福祉に関連する制度②
12	まとめ　肢体不自由・視覚障害・聴覚障害
13	まとめ　知的障害・精神障害・高次脳機能障害・発達障害
14	まとめ　内部障害・難病
15	まとめ　障害福祉に関連する制度

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	こころとからだのしくみⅠ					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	人間の心理や人体の構造・機能を理解するための基礎的な知識や発生メカニズムを学ぶことにより「予防の視点」を身に付け、介護福祉士として利用者と関わる際に、健康を意識した支援を実践する根拠を学ぶ。
到達目標	・介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解ができる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座11「こころとからだのしくみ」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　　健康とは何か
2	健康とは何か
3	人間の欲求とは マズローの欲求階層説
4	人間の欲求とは マズローの欲求階層説
5	こころとしくみ 脳のしくみ
6	学習・記憶・思考のしくみ
7	学習・記憶・思考のしくみ
8	適応のしくみ 防衛機制
9	適応のしくみ 防衛機制
10	ライチャードによる高齢者の人格の分類
11	中間試験、解説、DVD「人体のふしぎ」
12	からだのしくみ 身体各部の名称
13	内臓の名称（前面・後面）
14	全身の骨格・骨格筋
15	前期のまとめ 期末試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	こころとからだのしくみⅠ					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	人間の心理や人体の構造・機能を理解するための基礎的な知識や発生メカニズムを学ぶことにより「予防の視点」を身に付け、介護福祉士として利用者と関わる際に、健康を意識した支援を実践する根拠を学ぶ。
到達目標	・介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解ができる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座11「こころとからだのしくみ」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	前期の振り返り 脳・神経・自律神経
2	感覚器・呼吸器
3	感覚器・呼吸器
4	泌尿器
5	骨・筋肉
6	骨・筋肉
7	生殖器・内分泌
8	生命を維持するしくみ
9	薬の知識
10	中間試験・解説　全体の振り返り
11	全体のまとめ
12	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）
13	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）
14	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）
15	期末試験対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	こころとからだのしくみⅡ					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

授業概要	人体のしくみを理解したうえで、機能の低下がどのように生活行動に影響するかを考えることができ、利用者の残存機能・潜在能力に注目してどのような介護方法が適切か自立支援の観点より考えることが出来る。
到達目標	・こころとからだのしくみⅠで学習した内容を踏まえて、身じたく～人生の最終段階のケアなどの生活を支える介護実践との関係を理解できる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座11「こころとからだのしくみ」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	こころとからだのしくみⅠの振り返り、こころとからだのしくみⅡのガイダンス
2	移動のしくみ
3	心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4	変化の気づきと対応
5	身じたくのしくみ
6	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
7	変化の気づきと対応
8	食事のしくみ
9	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
10	変化の気づきと対応、中間試験・解説
11	入浴・清潔保持のしくみ
12	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
13	変化の気づきと対応
14	国家試験問題・解説　まとめ
15	移動～入浴・清潔保持のしくみまでのまとめ、期末試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	こころとからだのしくみⅡ					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

授業概要	人体のしくみを理解したうえで、機能の低下がどのように生活行動に影響するかを考えることができ、利用者の残存機能・潜在能力に注目してどのような介護方法が適切か自立支援の観点より考えることが出来る。
到達目標	・こころとからだのしくみⅠで学習した内容を踏まえて、身じたく～人生の最終段階のケアなどの生活を支える介護実践との関係を理解できる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20%、期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座11「こころとからだのしくみ」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	排泄のしくみ
2	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
3	変化の気づきと対応
4	休息・睡眠のしくみ
5	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
6	変化の気づきと対応
7	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方、「死生観」、死に対するこころの理解
8	中間試験、解説　　排泄～終末期、危篤、死後の体の理解までのまとめ
9	国家試験対策（過去問・模擬試験・解説）
10	国家試験対策（過去問・模擬試験・解説）
11	国家試験対策（過去問・模擬試験・解説）
12	国家試験対策（過去問・模擬試験・解説）
13	国家試験対策（過去問・模擬試験・解説）
14	国家試験対策（過去問・模擬試験・解説）
15	全体のまとめ、期末試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	発達と老化の理解					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

授業概要	成長、発達の観点から老化を理解し、老化によって起こる心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得する。 高齢者に多い疾病や老化に伴って生じる機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し生活支援技術の根拠となる知識を習得する。
到達目標	・介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達を理解し各段階に応じた生活支援を理解できる。 ・発達の観点から老化を理解し身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など基礎的知識が理解できる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座12「発達と老化の理解」 最新、介護福祉養成講座11「こころとからだのし	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　　発達と老化の理解とは 人間の成長と発達の基礎知識（発達とは、成長・発達に影響する因子）
2	過去・現在・未来（80歳）の自分を書いてみよう（演習）
3	人間の発達段階と発達課題（ピアジェ、エリクソン、ハビガースト）
4	身体的・心理的・社会的機能の発達と成長 老年期の特徴と発達課題、老化に伴うこころとからだの変化と生活
5	高齢者の疾患・症状の特徴（閉じこもり・廃用症候群・老年症候群）
6	高齢者の疾患・症状の特徴：筋肉系（骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症）と対策
7	高齢者の疾患・症状の特徴：筋肉系（骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症）と対策
8	高齢者の疾患・症状の特徴：脳神経系（パーキンソン症状・脳血管疾患・脳出血・脳梗塞）と対策
9	高齢者の疾患・症状の特徴：脳神経系（パーキンソン症状・脳血管疾患・脳出血・脳梗塞）と対策
10	高齢者の疾患・症状の特徴：皮膚感覚器系（白内障・難聴・脱水・ドライスキン）と対策
11	高齢者の疾患・症状の特徴：皮膚感覚器系（白内障・難聴・脱水・ドライスキン）と対策
12	高齢者の疾患・症状の特徴：循環器系（高血圧によって起こる疾患）と対策
13	高齢者の疾患・症状の特徴：循環器系（高血圧によって起こる疾患）と対策
14	高齢者の疾患・症状の特徴：循環器系（動脈硬化・心不全・糖尿病）とその対策
15	中間試験・解説、前半のまとめ
16	高齢者の疾患・症状の特徴：呼吸器系（肺炎・COPD・インフルエンザ・コロナウイルス）とその対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	発達と老化の理解					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

回数	授　業　計　画
17	高齢者の疾患・症状の特徴：呼吸器系（肺炎・COPD・インフルエンザ・コロナウイルス）とその対策
18	高齢者の疾患・症状の特徴：呼吸器系（肺炎・COPD・インフルエンザ・コロナウイルス）とその対策
19	高齢者の疾患・症状の特徴：腎泌尿器系（前立腺肥大・尿路感染症・腎不全）と対策
20	高齢者の疾患・症状の特徴：腎泌尿器系（前立腺肥大・尿路感染症・腎不全）と対策
21	高齢者の疾患・症状の特徴：内分泌・代謝系（糖尿病と合併症）
22	高齢者の疾患・症状の特徴：内分泌・代謝系（糖尿病と合併症）
23	高齢者の疾患・症状の特徴：歯・口腔系（齲歯・歯周病・ドライマウス）とその対策
24	高齢者の疾患・症状の特徴：感染症・精神疾患
25	高齢者の疾患・症状の特徴：感染症・精神疾患・その他
26	国家試験対策（過去問・予想問題・模擬問題、解説）
27	国家試験対策（過去問・予想問題・模擬問題、解説）
28	国家試験対策（過去問・予想問題・模擬問題、解説）
29	全体のまとめ
30	期末試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	認知症の理解					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境など正しく理解し、認知症の方に対する適切な全人的なケアが提供できる知識を学習する。
到達目標	・認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎知識を習得するとともに、認知症の人を中心にとらえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについてを理解できる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座13「認知症の理解」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス 認知症とは何か　　どのような病気か　　歴史・概要
2	脳の構造・機能
3	うつとせん妄の違い（認知症の人の心理）
4	中核症状の理解
5	ＢＰＳＤの理解
6	認知症の原因疾患と症状・生活障害①
7	認知症の原因疾患と症状・生活障害②
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害③
9	認知症の診断と重症度
10	認知症の治療薬・予防法・取り巻く状況
11	中間試験、解説 認知症のケアの理念と・当事者の視点から見えるもの
12	パーソン・センタード・ケアについて
13	国家試験対策（過去問・模擬試験）解説

14	国家試験対策（過去問・模擬試験）解説
15	期末試験対策、全体のまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	認知症の理解					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境など正しく理解し、認知症の方に対する適切な全人的ケアが提供できる知識を学習する。
到達目標	・認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎知識を習得するとともに、認知症の人を中心にとらえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについてを理解できる。
成績評価	中間試験20%（課題提出含） 期末試験80%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座13「認知症の理解」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	認知症とは、中核症状、ＢＰＳＤの振り返り
2	認知症の原因疾患と症状の振り返り
3	認知症の人の特性の理解・センター方式
4	認知症サポーター養成講座（※時期により前後することがあります）
5	健康状態のアセスメント
6	認知症の人のコミュニケーション
7	認知症の人へのケアの実態①
8	認知症の人へのケアの実態①
9	中間試験・解説　　認知症の人の終末期医療と介護
10	家族への支援
11	介護福祉職への支援
12	認知症の人の地域生活支援
13	多職種連携と協働 まとめ

14	国家試験対応(過去問・模擬問題)、解説
15	全体のまとめ、期末試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	医療的ケアⅠ					担当者名		山本　佐知子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 医療的ケア実施の基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また、介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景など医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について学ぶ。
到達目標	・医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術が理解できる。
成績評価	定期試験：80% 演習・提出物：10% 授業態度：10%
その他	山本　佐知子　実務経験の有無：有（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア　第2版	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	図解でスッキリ！介護福祉士テキスト	秋草学園福祉教育専門学校	ナツメ社

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　医療的ケアとは
2	医療的ケアの背景
3	喀痰吸引等制度
4	医行為とは　医療の倫理
5	清潔保持と感染予防
6	スタンダードプリコーション
7	中間試験　解説
8	安全な療養生活　喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
9	安全な療養生活　リスクマネジメント
10	健康状態の把握　心身・精神の健康
11	健康状態の把握　バイタルサイン　演習
12	安全な療養生活　救急蘇生法
13	安全な療養生活　救急蘇生法

14	医療的ケア　まとめ
15	期末試験前　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	医療的ケアⅡ　演習					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

授業概要	職業倫理、医療的ケアを必要とする利用者やその家族の気持ち、医療従事者との連携の大切さと安全性、制度など医療的ケアを行うに必要な知識、価値観、技術を取得する。
到達目標	・医療的ケアを安全に・適切に実施するために必要な知識・技術が理解できる。 ・喀痰吸引（基礎的知識・手順）、経管栄養）経管栄養（基礎的知識・手順）について学び実施できる。
成績評価	技術試験60%、期末試験40%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座15「医療的ケア」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2022、介護福祉士実務者研修テキスト第5巻	新田國士他編集	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス（医療的ケアとは、実施基盤についてのオリエンテーション）
2	実施基盤についてのオリエンテーション
3	医行為　喀痰吸引制度　背景　その他の制度
4	医行為　喀痰吸引制度　背景　その他の制度
5	安全な療養生活　　清潔保持と感染予防　健康状態の把握
6	安全な療養生活　　清潔保持と感染予防　健康状態の把握
7	実施に関してのオリエンテーション 喀痰吸引実施手順解説（テキスト・ＤＶＤ）
8	喀痰吸引デモンストレーション・実施
9	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
10	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
11	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
12	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
13	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
14	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
15	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上
16	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、技術チェック、課題 ※5回以上

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

九州医療スポーツ専門学校
令和 6年度　介護福祉学科　昼間Ⅱ部

授業科目名	医療的ケアⅡ　演習				担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

回数	授　業　計　画
17	経管栄養実施手順解説（テキスト、ＤＶＤ）
18	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
19	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
20	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
21	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
22	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
23	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
24	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
25	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
26	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）技術チェック、課題　　※5回以上
27	各技術の最終確認、課題
28	各技術の最終確認、課題
29	全体のまとめ　　期末・国家試験対策
30	期末・国家試験対策